

# 力タチないもの

園長 三輪 治彦



あれよあれよという間に3回目となる機関紙の巻頭執筆で、前2巻は自分の想いを「未来」と「過去」に置き換え掲載させてもらいましたが、今回は3部作の完結として「現在」を描くことにしました。

これまで感覺屋な自分は、ちよくちよく異業種分野から福祉を感じることや自分を振返ることがあつたのですが（参考までに映画だと「オーシャンズイレブン」「聲の形」ぜひ観てください）、最近では鳴滝園にピッタリな言葉に遭遇したのです。

それが「不易流行」です。みなさん知つてました？「いつまでも変わらない本質的なものの中にも、新しい変化を取り入れていく」という意味で、どのように時代の流れに対応するかという心構えを説いた言葉のようです。

例えば、人に気持ちを伝える手段を考えた場合、今はメールやLINEが主流で、昔は手紙が主流でしたが、どちらも「伝える気持ち」に変わりはありません。不易流行で言うと「不易＝伝える気持ち」「流行＝伝える手段」となり、普通に考えれば「不易」が本質と感じますが、そもそも伝える手段がなければ気持ちを伝えられません。つまり「不易」「流行」の両方があつて、初めて物事は成立するということになるのです。ずっと変わらないことも大切かもしれません、変わり続けていくことも同じくらい大切なではないでしょうか。

いま鳴滝園の中にある本質（眞実）は何なのか、等と想うことはたくさんあります、これからは「不易」と「流行」のバランスを重視する心構えも身につけ、どんなに時代が変化しても、その時代に応じた考え方や言動、物事の見方が出来る集団になれるよう、大きく変わっていくことを信じ、ひとりで頷いてる今日この頃なのです。